

三	は
七	

卷六

南海道  
西海道  
沖繩島

改正日本地誌要畧

大槻修二著述

六

三	は
七	

卷五

中國  
山陰道  
山陽道

改正日本地誌要畧

大槻修二著述

五

三	は
七	

卷四

北陸道  
北海道

改正日本地誌要畧

大槻修二著述

四

門	三
別	は
號	七

卷五  
 中國  
 山陰道  
 山陽道

改正日本地誌要畧

大槻修三著述

五

改正日本地誌要略卷之五

東京大槻修二著述

中國

中國ハ山陰山陽ノ兩道ヲ泛稱スレド、蓋轉訛ニ係レリ、丹波丹後但馬因幡伯耆出雲石見隱岐ノ七國一嶋ヲ山陰道トシ、播磨美作備前備中備後安藝周防長門ノ八國ヲ山陽道トス。○此兩道ハ畿内ノ西ニ接シテ、西ニ赴クヲ百三十里、而テ左右皆海ナリ、其端ハ南ニ向ヒテ、九州嶋ト赤間海峡ヲ夾ム、大山脈ノ東北ヨリ來ル者ハ、其中央ニ連リテ、海峡ニ盡ク、即全國ノ背脊ニ亘ル連山ニシテ、其陰陽ニ依リテ、此兩道ヲナス、丹波美作ハ山間ニ在リテ、其ニ海ナキ國

第 三 十 二 卷



シテ斜ニ國ノ中央ヲ貫キ西北ニ流ル、一二十里其間ハ  
 舟行ヲ通ズベシ、出羽熊見、矢上市木ノ諸川悉會流シテ其  
 海口ヲ渡津ト云フ、○高津川ハ廣瀨津和野ノ兩川相合ヒ  
 テ西南隅ヲ流ル、一十五里高津山下ニ到リテ海ニ入ル  
 此國ノ海濱ハ岩礁相連リタル荒磯ニシテ小嶼數十並ビ  
 峙ツ其中央ニ立チテ漸遠キ者ヲ高嶋ト云フ、○港灣ハ外  
 浦ヲ第一トス、瀨戸嶋、箭野嶋、馬嶋其前面ニ並ビテ灣ノ南  
 岸ヲ濱田ト云フ、國ノ大邑ニシテ松江ハ三十六里アリ、又  
 山陽ノ通路ハ市木、出羽ノ兩道アリテ其ニ安藝ノ廣嶋ニ  
 到ル二十六里ナリ、長濱浦ハ榮螺崎ヲ隔テ濱田ノ西ニ  
 接シ、瀨戸嶋ニモ小灣アリテ三處皆碇泊ノ便アリ、○温泉

津ハ浴場アリテ且港泊ノ地タリ其地ハ邇摩銀山及大森  
 町ニ接シテ礦場ノ出入ハ皆港内ニ送致スト云フ、○津和  
 野ハ西隅ノ一邑ニシテ濱田ト相距ル十九里、河岸ニ沿ヒ  
 テ長門ノ通路アリ、而テ周防ノ山口ニ達スルハ十一里ナ  
 リト云フ、  
 隱岐四郡  
 一國四嶋ニシテ出雲ノ正北海上十餘里ニアリ、南ノ三嶋  
 ヲ嶋前ト總稱ス、知夫里嶋ハ周回七里、西嶋ハ二十里、是ヲ  
 知夫郡トス、中嶋ハ沿回十六里ニシテ海士郡ナリ、北ノ大  
 嶋ハ周吉穩地ノ兩郡ニシテ其周回ハ三十里、是ヲ嶋後ト  
 呼ブ、前後相距ル四里、群嶋其間ニ並ビテ松嶋稍大ナリ、其

他ハ大森音部ニ股星上等ノ諸嶋ニシテ、其數ハ大小一百八十嶋アリ、總テ隱岐小嶋ト呼ベリ、知夫里ハ、最南ノ一嶋ニシテ、南岸ノ知夫里港ハ、出雲ノ美保關ヘ海程十四里アリ、嶋ノ西北ハ、赤灘瀬戸ヲ以テ、西嶋ニ接ス、峽際最狹シ、○西嶋ハ、兩地ニ分レテ、船越ノ地狹相連ル、其西ニ浦郷港アリ、焼火山ハ、東地ノ南岸ニ立チテ、其麓ヲ大山脇ト稱ス、此嶋ハ後醍醐帝ノ行宮跡アリテ、今尚黒木御所ノ名ヲ存セリ、○中嶋ハ、後鳥羽帝ノ崩處ニシテ、森里ニ御陵地アリ、知々井崎ハ、嶋ノ東端ニアリテ、岬側ノ小灣モ亦知々井港ト呼ブ、大満寺大峯ハ、嶋後ノ大山ニシテ、又摩尼山トモ云フ、葛尾

山横尾山等、相並ビテ、全嶋皆山ナリ、其山際ニ大平山ノ鐵坑アリ、又西南ノ溪間ニ、壇鏡那知ノ兩瀑布アリテ、直ニ海ニ注ギ、八尾川ハ、大峯ヨリ出テ、西郷港ニ入ル、○此嶋ノ四面ハ、大率岩礁斷崖ニシテ、岬角モ亦多シ、白嶋鼻ハ、北角ニシテ、西ニ那久崎アリ、東南ニ西郷崎アリ、西郷港ハ、嶋中ノ良灣ナレバ、隱岐港ヲ稱アリ、灣口東南ニ向ヒテ、美保關ニ到ル舟路十八里アリ、此他ノ港泊ハ、南岸ニ加茂箕浦アリ、西岸ニ福浦アリ、此國ハ日本海中西邊ノ絶嶋ニシテ、其西北海上ニ松嶋竹嶋ノ兩嶋アリ、相隔ル殆、一百里ニシテ、朝鮮ニテ蔚陵嶋ト稱ス、近來定メテ其國ノ屬嶋トナスト云フ、

改正日本地誌要略卷之五

改正日本地誌要略卷之五  
(以下為非常模糊的印刷文字，內容難以辨識)

明治十一年六月十九日 原版發行  
明治十二年三月廿二日 分版御届  
明治十五年十二月七日 改正版權免許  
明治十九年五月三十日 出版納本

每冊定價(正)廿錢

原 版 主  
兼 著 述 人

東京府平民  
大 槻 修 二  
府下淺草區北富坂町廿五番地

出 版 人

大阪府平民  
柳 原 喜 兵 衛  
府下東區北久寶寺町四丁目拾五番地

出 版 人

大阪府平民  
三 木 佐 助  
府下東區北久寶寺町四丁目拾四番地

出 版 又

大阪府平民  
岡 島 眞 七  
府下東區本町四丁目五拾六番地

